○児童生徒の安全と安心につながる安全教育の充実

熱中症予防や食物アレルギー対応等の体制づくりや研修を行うことで学校事故の未然防止に努めるとともに、事故発生時の対応について全教職員で共通理解を図り、緊急時にも迅速に対応できるよう体制整備を行うことで、児童生徒にとって、安全・安心な教育環境の確保をお願いします。

また、児童生徒の危機回避能力の育成を目指し、登下校時の安全教育や自然災害等への防災教育を充実させることも大切です。登下校防犯プランを踏まえた安全パトロールを行ったり、地域のハザードマップを活用した災害時避難訓練を実施したりしながら、家庭や地域との連携を強化させ、組織的な安全教育をお願いします。

［ 幼児教育 ］

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた環境の構成や援助の工夫

幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿を踏まえた上で、幼児の興味や関心に即しながら、その時期にその幼児の中にどのような育ちを期待したいか、一人一人の発達に必要な体験は何かを考え、その体験が可能となるような環境の構成や援助をお願いします。例えば、「生命の大切さを考えるきっかけとなるように、幼児の目の付く場所に虫かごを移動する」などが考えられます。遊びをどのように広げたり、深めたりさせたいのか、見通しをもっておく必要もあります。

また、幼児の具体的な要求や行動の背景にある内面の動きを察知して援助したり、遊びの中で試行錯誤し、じっくり取り組める時間を確保したりすることもお願いします。他にも、例えば、「外遊びを楽しんでいる幼児に遠くから話し掛け、そのやりとりから室内遊びの多い幼児に外遊びの心地よさを味わいたいと思わせる」など、周りの子へつなげたり、広げたりすることも大切です。

幼児の好奇心を掻き立て、様々なことに興味や関心をもたせてるようにしてください。関わる人や物を豊かにしながら、子どもの可能性を広げていく援助の継続をよろしくお願いします。

［特別支援教育］

○障害のある子どもの特性の理解と、必要かつ適切な指導・支援の工夫

昨年度の訪問指導では、一人一人の興味関心を生かした適切な支援により、意欲的に課題に取り組む児童生徒の姿を見ることができました。また、子どもの言葉や行動の理由をじっくり聞き取り、個別に声をかけたり、他の子どもに思いを気付かせたりする援助の後に、すっきりとした表情でまた遊びに戻る幼児の姿を見ることもできました。障害のある子どもに関わる全ての教職員が、子どもの特性を真に理解することから適切な指導・支援は生まれます。今年度も確かな見取りのもと、一人一人に寄り添った必要かつ適切な支援の工夫をお願いします。

○切れ目ない、つなぐ支援の充実

今年度は、昨年度までに作成していただいた「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の活用方法の検討をお願いします。今までも、両計画については進級・進学先へと引き継いでいただいていますが、進級・進学先では新学期の慌ただしさに紛れ、目を通す時間がないなどの話も聞かれています。引き継ぎの際に、説明・協議する場や時間を設ける等の工夫はもちろんのこと、新学期のスタートから支援が継続できるような体制づくりをお願いします。また、一人一人の子どもへの指導・支援に両計画を生かす視点を大切にし、学期毎や一年のうちのまとまった期間の中で指導目標や指導内容、指導方法等を見直す機会を意図的に設けるなど、指導・支援の更なる充実をお願いします。